

新入生宣誓

桜の花も盛りを過ぎ、港横浜に吹く海風も心地良く感じられるこの良き日に、私たち新入生一同は、星槎大学・大学院の入学式を迎えることができました。

本日は、私たちのためにこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、心より深く御礼申し上げます。

今日この日を迎えた私たちの胸には、入学への喜びと新しい生活への期待と希望で満ち溢れています。

そして星槎大学・大学院の学生として恥じる事のないよう自覚を持ち、仲間と共に成長していきたいという気持ちで身が引き締まる思いです。

近年、我が国では、少子高齢化や格差社会などと並び、最も積極的に取り組むべき重要な課題のひとつに、共生社会の形成が挙げられます。

それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であります。

星槎大学では、それらの大きな課題に対応できるよう教育、福祉、環境そして国際関係と幅広い分野から共生社会を学ぶことができるとも魅力ある大学です。

思い起こせば十年前、私はこの共生という言葉に惹かれ、星槎大学に編入し二年間社会福祉と教育を中心に学びました。

仕事や育児をしながらの学びは苦難の連続でしたが、先生方や様々な経歴、年齢の仲間たちに助けられ、支えられ、励まされながら過ごした日々が昨日のこのように思い出されます。

課題がなかなか仕上がらず深夜まで仲間とメールや電話をして知恵を出し合ったり、社会福祉の実習で困難な事例に出会い悩んだ際には、巡回に来てくださった担当の先生に笑顔とアドバイスを頂き、感極まり涙した日もありました。

星槎大学で学んだこの充実した二年間は何ものにも代え難く、私の礎となり、その後の人生に自信と誇りをもたらしてくれました。

今思い返すと、私も星槎を通して大学や先生方、仲間たちなどたくさんの人と共生していたと感ずることができます。

それから八年後の今日、今度は大学院生として再び星槎の門をくぐることができました。

大学を卒業後、社会経験ののち、年齢を重ね再び学ぶということは、たくさんの準備や覚悟が必要でしたが、今までの学びや社会経験を更に深めたいという思いと、学部時代の良き思い出が、星槎なら乗り越えられるという自信に繋がり、入学の決断を後押ししてくれました。

今回、入学のご縁をいただいたからには、星槎でまた学ぶことができることに感謝しつつ、学部時代以上に先生方のご指導のもと、仲間たちと共に助け合い、支えあい、励まし合いながら目標に向かって努力をしてまいります。更に、これまでの学びや社会で経験したことを生かし、様々な人々と共生することで、数年後、共生社会の進展に貢献できる研究者・教育者になれるよう日々研鑽していきたいと思っております。

そのために星槎大学の「建学の精神」でもある『社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。』を大切にし、より一層の努力をしてまいります。

教職員の皆様、諸先輩方、私どもはまだ未熟ではございますが、何とぞご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、本日大変ご多忙の中、私たちのためにご出席いただきました学長はじめ教職員の皆様、ご来賓の皆様、ご家族の皆様に心より御礼申し上げます。

本日皆様から賜りました力強く温かなお言葉と星槎創設者 宮澤保夫先生の『人を認める 人を排除しない 仲間を作る』を胸に刻み、実りある学生生活を送ることを誓います。

以上を持ちまして私の宣誓の言葉とさせていただきます。

本日はまことにありがとうございました。

平成30年4月14日

新入生代表

星槎大学大学院 教育学研究科

高橋真由美